

# 宮崎大学九月生活報告書

四年二組 周 力信

かつて、テレンティウスがそういった「人生は将棋のようなものだ。自分の手中のものはチャンスではなく、駒の進め方だ。」

九月、僕は宮崎大学の研修生（インターンシップ）として、宮崎の北にある豊かな自然に抱かれ、優しさと人情味に溢れている五ヶ瀬という所に行きました。インターン先は熊本県と隣接する山奥のキャンプ場と五ヶ瀬自然学校でした。

その人は本当に優しいです。そのお陰で最初すごく緊張していたけどすぐに慣れました。仕事は本当に想像以上種類が多かったそして珍しかったです。例えば、スキー板の滑走面にワックスを塗ったりとかお客様と一緒にカヌーを漕いだりするという普段絶対にできない素晴らしい仕事がそこにいっぱい体験できます。キャンプ場での仕事は部屋のお掃除以外ほとんど「草との闘い」でした。田んぼでの仕事もそうでした。農業は草との闘いといっても過言ではない今は深く感じています。

一方、自然学校の仕事はまた別の風景でした。時に玉ねぎ皮

を剥いて、時に資料の整理して田んぼ作業をすとかをします。平日三時になったから自然学校はまるで嵐が通るような大きな騒ぎをします。それは子供が来たからです。私の役目はいつも子供だちのおもちゃでした。肩車をして、お姫様抱っこもして、時々子供だちに蹴られて、叩かれて、叱られて。体も心も本当に疲れます、でも、子供だちの素直な笑顔を見る度に、ああ！！やりがいがあったなあと思いました。

一日の仕事を終えるから、たまに同僚に誘われ、一緒に温泉に行くんです。くたくたになった体は一瞬にリラックスして最高でした。たまに杉田さん（キャンプ場の管理者）はみんなを誘って一緒に夕食を食べます。そこで、しゃぶしゃぶを食べながらおしゃべりして、とても勉強になります。なぜかというところでも様々な話題が聞けますからです。自分の日本語会話力も伸びますし、目上の人を経験や知恵やアドバイスももらえます。

九月の間、素晴らしいことや体験がまだまだたくさんあります。ここでは一つ一つ詳しく述べませんが、でも、五ヶ瀬に来てよかったですという思いは今でも心の中に溢れています。

2017/10/08 作成